

光星3年ぶり栄冠



【決勝・工大一—八学光星】8回八学光星1死一、二塁、横山永遠が右越え適時二塁打を放ち6-5と勝ち越す=長根

8回打者11人7点

ポイント

直前の守りで2点リードを許した八回、聞こえ始めた敗北の足音を八学光星打線がかき消した。それまで打ちあぐねた相手先発の技巧派右腕を捉え、打

者11人で計7得点、苦しみながら3年ぶりの春の青森県王者に上り詰めた。疲れからか制球にほころびが見えた相手投手の隙につけ込んだ。1死満塁としタイムアップで同点。なお1死一、二塁で打席に立ったのは3番横山

鮮やか逆転 視線は夏へ

【林泰輔

青森県 最終日 春季高校野球

春季青森県高校野球選手権最終日は24日、八戸市長根球場で3位決定戦と決勝が行われた。決勝は八回に一挙7点を奪った八学光星が工大一に10-5で逆転勝ちし、3年ぶりの栄冠。3位決定戦では東義が好機を着実に生かし、7-0の七回コールドで工大二を下した。上位2校が出場予定だった春季東北大会(6月2～6日・秋田県)は、新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たないことなどを理由に中止が決まっている。(取材班)

決勝

工大一 001011020 | 5
八学光星 00100117X | 10
(一) 村木、中村一喜西
(八) 小室、森、洗平一伊藤、久守
▷本塁打 田端(工) 井坂(八)
▷二塁打 澤口(工) 吉村、横山、須藤(八)
▷暴投 村木(工) ▷ボーク 中村(工)
▷試合時間 2時間18分
(球審=立花、塁審=滝田、小田、金)
【評】八学光星は八回、横山の右越え適時二塁打や吉村の左前2点適時打、須藤の左中間適時二塁打などで計7点を奪い、一気に試合をひっくり返した。工大一は同点で迎えた八回に澤口の2点二塁打でリードを奪ったが、その裏に投手を含めた守りが崩れた。

捉えられていなかった。内角を攻めてくるはずだ。カウント2-2からの5球目の内角直球を右翼線に運び、勝ち越した。曹聖野1を背負う勇の、読み勝ち。打線は勢いづき、さらに4点を追加した。終わってみれば5点差の勝利だが、八回までは常に後手に回る苦しい展開。仲井亮基監督は「試合内容は負けていたとき3打点だった吉村版も1(光星打線が苦手にされる)横山投

げや下手投げ、左腕投手など自分たちは対応力がまだまだ」と反省しきりだった。初戦から準決勝まで1点差勝ち、決勝も一時は敗色濃厚の内角、高橋健太だった工大一は、打撃や走塁などあらゆる面で課題が噴出した。吉村は「二つのミスが勝敗につながる。どんな投手が来ても打てよう、もっと練習するだけだ。勝負の夏へ、さらなるレベルアップを誓っていた。」